

孔子の里 観光ボランティアガイド会

▶ 中島國孝会長と会員



私たちがご案内します！

平成20年10月、多久聖廟を案内する「孔子の里観光ボランティアガイド」の活動を始めました。

活動目的は、多久の魅力や聖廟の由来などを伝えることで、観光客のみなさんに「多久に来て良かった」、「多久にまた来たい」という満足感を感じていただくことです。この活動によって、多久の活性化に少しでも貢献できればと思っています。

現在会員は15人。毎週土曜日（10時から15時）や団体などから予約が入った日、釈菜や紅葉まつりなどに交替で活動しています。

ガイド会では会員を募集しています。知識や経験がない方も大歓迎。これから一緒に学んでみませんか？活動を通し多久の魅力を知ることができるし、仲間づくりもできます。自分の自由になる時間の中で活動できます。ご応募をお待ちしています。

問 多久市観光協会 ☎74-2502

●連載13● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

『戊辰戦争と多久の若者たち』

慶応4年(1868)の鳥羽伏見の戦いから、明治2年(1869)の函館五稜郭の戦いまでの、1年5か月に及び内乱を戊辰戦争といいます。この戦争には、多久からも多くの若者たちが駆り出されていました。

慶応4年5月29日、領主多久茂族に率いられた、多久兵158人を含む420人あまりの佐賀藩兵は、戦地に向かって出発しました。伊万里から船で江戸に向かい、江戸からは陸路で東北へ進軍します。彼らの中には、鶴田皓(高取伊好の実兄)、飯盛挺造(後に物理学者となる)、鳥越剛樸(多久村長となる)らがいきました。茂族が指揮した佐賀藩兵は、アームストロング砲など当時最新鋭の兵器を用いて若松城を攻略、城主松平容保らを東京へ護送し、同年12月、佐賀へ帰ってきました。

しかし、分隊長をつとめた鶴田皓は、東京に留まって官職に就き、やがて刑法やさまざまな法律を起草・編纂するなど当時を代表する法学者となりました。戊辰戦争では白虎隊など多くの悲劇がありましたが、鶴田皓のように従軍をきっかけにして人生を拓いた人もいました。



▲鶴田皓

鶴田皓の資料は、多久市先覚者資料館で常設展示をしています。激動の時代を生き抜いた、先人を身近に感じてみませんか。

多久市郷土資料館ミニ企画展

中尾神社の天井絵展

会場 / 多久市郷土資料館 3号展示室

会期 / 4月6日(金)～5月31日(木)

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

古い二人遺影はどうする撮らねばと
アルバム持ち出し品定めする 福島那智子

ハールヨコイ幾度も心に叫んでた
紅梅やつと四分咲きたり 内田 龍子

それぞれに痛み一つを持ちながら
待合室にひしめく人等 川浪 信子

助け合う絆がなげれ早一年
痛みは深し 日本列島 田淵ミチ子

僧衣の寂聴 ベンと法話の明け暮れに
同じ女人の無為の哀しみ 迎 寿代

俳句

《あざみ句会 互選》

地に落ちて二度楽しめます椿かな
川内スミ子

陽炎や蔵に大きな酒林
大石ひろ女

うぐいすの声の先行く山路かな
中嶋 清子

選暦をさらりと過ぎて初桜
武富りつ子

川柳

《多久市川柳会 互選》

年寄りの足腰狙うコマージュナル
松下 修

ペットフードポチも気になる消費税
井上 東子

春風に新芽が出ずるエネルギー
古井のぶこ

入学の子が撮る母の晴れ姿
大谷 和

こだわりを脱いでホッと
温泉湯 西山 残月